

厳しい環境の中、当健保は黒字を維持し、安定した運営を行っています

健康保険組合連合会が発表した全国の健康保険組合の平成30年度早期予算集計結果は、経常収支差引額で1,381億円の赤字となりました。

平成29年度予算に比べ、赤字額は縮小しましたが、依然、全体の約6割を超える866組合が赤字の状況です。また、保険料率が11年連続で増加し、全体の約12.5%の172組合が引き上げました。

赤字額が縮小した要因は、被保険者の増加による保険料収入の増加と、高齢者医療制度の拠出金負担が精算の戻りにより一時的に減少となったためです。しかし、保険料収入に対する拠出金の割合は43・11%、納付金と保険給付費を合わせた義務的経費に占める拠出金の割合が45・76%と、拠出金負担が組合財政を圧迫している状況に変わりありません。

高齢化がピークを迎える2025年度には拠出金が義務的経費の50%以上となる組合が870組合にのぼると推計されており、国民皆保険の崩壊が危惧されています。現役世代の負担を軽減し国民皆保険を維持するためには、高齢者医療制度の構造改革の必要性が求められます。

こうした状況の中、当健保組合の平成29年度決算がまとまりましたので、その概要をお知らせします。

基礎数値

(平成30年3月現在)

被保険者数	男	1,933人
	女	842人
	合計	2,775人
平均標準報酬月額	437,937円	
総標準賞与額 (年間合計)	4,635,489千円	
被扶養者数	2,939人	

一般勘定（健康保険）

収入 ▶ 被保険者数の減少により保険料収入は減収

収入面では、総標準賞与額が増収となったものの、被保険者数が減少したため、保険料収入は前年度より2,236万円の減収となりました。また、繰越金より2億円を繰り入れ、収入総額は19億1,553万円となりました。

支出 ▶ 前期高齢者納付金の精算の戻りで一時的に負担減に

医療費として支払われる保険給付費は、前年度より1,097万円減少し、7億2,362万円となりました。

また、納付金については、前期高齢者納付金の精算の戻りがあり減少したため、納付金全体で前年度に比べて4,210万円の減少となりました。

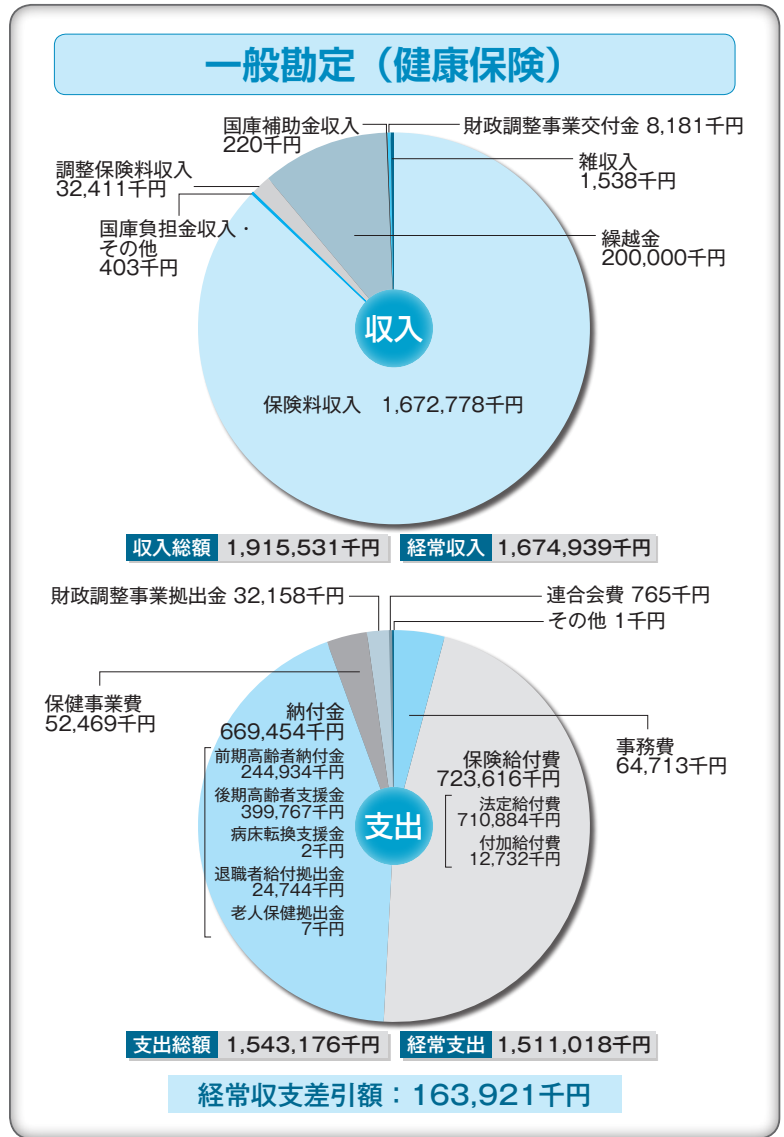
保健事業につきましては、29年度も疾病予防や健康増進のための事業を可能な限り実施いたしました。

結果、平成29年度の収支差引額は3億7,236万円の黒字に、経常収支差引額においても1億6,392万円の黒字で終わることができました。

収入		単位：千円
保険料収入	1,672,778	
国庫負担金収入・その他	403	
調整保険料収入	32,411	
繰越金	200,000	
国庫補助金収入	220	
財政調整事業交付金	8,181	
雑収入	1,538	
収入総額	1,915,531	
経常収入	1,674,939	

支出		単位：千円
事務費	64,713	
保険給付費	723,616	
法定給付費	710,884	
付加給付費	12,732	
納付金	669,454	
前期高齢者納付金	244,934	
後期高齢者支援金	399,767	
病床転換支援金	2	
退職者給付拠出金	24,744	
老人保健拠出金	7	
保健事業費	52,469	
財政調整事業拠出金	32,158	
連合会費	765	
その他	1	
支出総額	1,543,176	
経常支出	1,511,018	

単位：千円	
一般勘定収支差引額	372,355
経常収支差引額	163,921



介護勘定（介護保険）

各市区町村が保険者として運営している介護保険の保険料徴収は、健康保険組合が代行して行っています。組合に加入する40歳以上64歳までの方々に対する介護保険料として徴収し、各市町村へ納めています。介護保険の第2号被保険者数は、2,575人でした（被扶養者を含む）。

平成29年度は介護保険収入が1億8,966万円、介護保険納付金が1億9,135万円となりました。繰越金より5,000万円の繰り入れとなりました。

収入		単位：千円
介護保険収入	189,655	
繰越金	50,000	
雑収入	10	
合計	239,665	

支出		単位：千円
介護納付金	191,353	
合計	191,353	
介護収支差引額	48,312	

公告

規程の改定を行いました

- 監査規程（改定理由）名称変更及び報告書の追加に伴う改定
- 理事及び議員旅費規程（改定理由）理事及び議員の旅費の見直しに伴う改定

組合会選定議員が交代されました

（敬称略）

就任	氏名	就任日	退任	氏名	退任日
	兼田 智彦	平成30年4月16日		三小田 大洋	平成30年4月15日